

たかもり

発行所 高森町公民館
 長野県下伊那郡高森町
 長野市田高森
 発行人 一 芦部 公集
 編集 本館 編集 部
 印刷 所 印刷 株式会社
 龍共印刷株

高森町で開催！ 国民スポーツ大会



第50回 全日本天竜川カヌー競技大会の様子

中学生が取材!!

信州やまなみ
国スポ会場
高森!

2028年(令和10年)に信州やまなみ国スポが開催されますが、高森町が会場予定となっている競技があることを知っていますか？実は、高森町はカヌー(スラローム・ワイルドウォーター)とビーチバレーボールの会場となつています。知らなかった人も多いと思いますので、今回高森町教育委員会事務局で信州やまなみ国スポを担当している木村紘太さんにお話を聞きました。

Q 信州やまなみ国スポに向けて高森町が取り組んでいることは何ですか？

A カヌーのコースやビーチバレーボールのコースを大会ができるよう整備するために、設計に取り組

んでいるところです。また、大会を行う際に必要な備品の確認やスタッフを調整しているところです。

Q カヌーやビーチバレーボールに対する取り組みはどのようなことを行っていますか？

A 広く町民の皆さんがカヌーやビーチバレーボールに親しめる機会に取り組んでいます。カヌーに関しては、リオデジャネイロオリンピックの銅メダリストでパリオリンピックでも活躍された羽根田卓也選手をお呼びしてカヌー体験のイベントを開催したり、町で活躍している方を広報などで取り上げたりしています。ビーチバレーボールに関しては、これからバレー



Q 高森町で信州やまなみ国スポを行うことによつて高森町にどのような効果があると考えられますか？

A 国民スポーツ大会という全国規模の大会を開催することによつて、町民の

協会の屋内のバレーボールの団体と協力したりして、盛り上げていきたいと考えています。

Q 高森町がカヌーとビーチバレーボールの会場に選ばれた理由は何ですか？

A 天竜川の起伏にとんだ流れや激流は、以前からカヌー愛好家に親しまれていて、全国からファンが訪れます。そんな天竜川でぜひ国スポを開催したいという声が集まったのだと思います。また高森町では水辺空間の賑わいづくりである「かわまちづくり」に取り組んでいて、カヌーと合わせて、国スポ後にも水辺空間を活用できる競技としてビーチバレーボールが選ばれました。

Q 高森町で信州やまなみ国スポを行うことによつて高森町にどのような効果があると考えられますか？

A 国民スポーツ大会という全国規模の大会を開催することによつて、町民の

きつかけになります。大会が終わった後も町内外の皆さんが高森町に来てカヌーなどで楽しんでもらえるように発展していくといいと思っています。

私達はお話をお聞きして、今はまだカヌーやビーチバレーボールに親しむことができないようなイベントももっと増やして、高森町がもっと盛り上がっていったらいいと思います。

この記事は高森町公民館にて職場体験した高森中学校2年の宮澤俊丞・吉沢澄海・今村賢太が制作しました。

イベント開催情報



10月14日(月・祝)に公民館スポーツフェスを開催します。今年度はニュースポーツの「モルック」と「囲碁ボール」を種目に、10月オープン予定の山吹ほたるパークサッカー場で開催します。詳しくは常会文書または町ホームページをご覧ください。

10月20日(日)〜10月26日(土)
 展示期間 高森町中央公民館2階
 展示場所

10月26日(土)高森ふるさと祭りと同時間開催
 会場 福祉センター 大ホール(予定)
 内容 プラバン、飛び出すカードの手作り体験
 詳細については今後常会文書や町ホームページ等でお知らせします。
 各イベントの内容は変更となる場合があります。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

公民館スポーツフェス

8月4日、町環境水道課の主催で水生生物観察会が開催されました。30度を超える炎天下ではありましたが、3歳から6年生までの子ども14名と大人10名が大島川の天竜川合流地点と上流域の2カ所をたぐさんの水生生物を捕獲して観察することができました。

9時に役場駐車場に集合し、マイクロバスで明神橋西側の大島川合流地点に移動して、注意点などを聞いてから、子どもも大人も網やバケツを持って夢中で水生生物を捕獲しました。捕獲した生き物については、環境アセスメントセンターの柳生さんと宮澤さんから説明していただきました。

6年3組は、5年生のときに総合学習で町の観光資源である不動滝のことを学びました。そこで知った不動滝の魅力や沢山の山の人を知ってもらいたいとの思いから、このイベントの企画に至ったそうです。

南小学校6年3組29名が、夏休みの8月2日と3日に、大島山の不動滝のPRを目的としたイベントを開催しました。両日で目標を大きく上回る約150名が参加し、静かな山の中に子供たちの元気な声が響き渡りました。タッキー(児童たちが考えた不動滝のキャラクター)も大喜びだったでしょう。

8月2日に私も参加させてもらいました。シャトルバスを降りて児童からスタンプラリーの説明を受け、台紙を受け取りました。ゴールの滝まで7か所のチェックポイントを巡り、

不動滝へGO！ 南小6年3組 真夏のイベント

合流地点付近にはサワガニ、ヘビトンボの幼虫などきれいな水に生息する指標生物が7種見つかり、カジカやカワムツなどの魚類も4種捕獲できました。10時30分からは上流域になる竹原建材横の大島川で水生生物を捕獲しました。明神橋の合流地点とは違って木陰で水温も低く、観察しやすい環境でした。中には首まで水に入って涼んでいる子もいました。上流域ではカワゲラ類やヒラタカゲロウ類などきれいな水質に生息する生き物が多く見つかりました。

最後のまとめの会では子どもから「きたない水にすむ生き物がいなかった」「上

流の方は水が冷たかった」など感想が出されました。柳生さんからは「大島川にはきれいな水にすむ生物が多かったです」とお話がありました。夏休みの1日、お家の方と一緒に川で過ごした思い出は子ども達の心にずっと残るだろうと感じました。子どもばかりでなく、大人も夢中で生き物とふれあっている姿が印象的でした。

公民館編集部

手作りのスタンプを集めます。内3か所で不動滝に関するクイズに答え、全問正解するとゴールで景品(手作りのタッキーのキーホルダー)がもらえます。

スタートすると道中には山に住む獣の足跡のペイントがありました。かつての売店の中ではボウリングや輪投げのミニゲーム、駄菓子や児童手作りのキーホルダーの販売なども行われていました。

ゴールしてタッキーのスタンプをもらい、滝を見上げました。猛暑の中、ここは別世界。涼やかなミストを受け、不動滝の魅力を再認識できました。

皆さんも不動滝を訪れてみてはいかがでしょうか。

公民館編集部



たかもり生きものじらべ
 「水生生物観察会」

14万羽の折り鶴を広島へ 平和へのかけはし使節団



未来へ平和をつなぐ

飯田高等学校1年 根本 紗和

終戦から79年、私は平和へのかけはし使節団の一員として広島を訪れた。広島は緑が繁り、穏やかな町だった。だが79年前の8月6日、豊かな緑も人々の幸せな日々も原子爆弾によってすべて奪われてしまった。

今回私が訪れた平和記念資料館。ここで見た1枚の写真に私は胸が苦しくなった。御幸橋で撮られた1枚である。人々が橋の隅の方に座りこみ、写真中央の女の子は黒焦げの赤ちゃんを抱いている。残酷そのものだった。

あんな悲劇が起こったというのに、世界では今も戦争や紛争が続いている。だからこそ、この平和バスで学んだ被爆者の方々の思いを、自分達が語りつなぎ、平和へのかけはしとなって平和を築いていきたいと思った。

8月5日(月)から7日(水)までの日程で第34回「広島平和バス派遣事業」が開催され、22名の団員が広島へ派遣されました。8月5日早朝、丸山公園の平和の丘で出発式を開催し、町民の皆さんを中心に作成していた14万羽の折り鶴を受け取り広島へ出発しました。10時間の長旅を終え広島に到着した使節団はまず広島平和記念資料館を見学し、写真や展示品を通じて原爆の恐ろしさを学びました。2日目の8月6日には広島平和記念式典に参列後、語り部の方のお話の聴講、折り鶴の奉納、原爆ドーム等の平和公園の見学、高校生による平和をテーマとした演劇鑑賞をしました。夜にはとうろう流しの見学もしました。最終日の8月7日には1日かけて高森町へ戻り、夕方には帰町式を行いました。団員一人一人が平和の尊さについて考える機会となりました。

下市田2区分館 納涼祭

高森南小学校 5年 中村 明日香

7月14日(日)下市田2区の会館で納涼祭が行われました。私は小さな頃から毎年お祭りに来ていて、友達や母と一緒に踊りを披露したりしていましたが、今年も上がり今年からは見る側にまわりました。

納涼祭では、色々な年代の方々が前に出て堂々と発表をしてくれました。ポンポンを持って踊ったり、太鼓やトランペットを演奏したり、元気の出るダンスに、

集め方をどうするか、年々参加する人の数が少なくなっている状況をどうするか等の点がありました。育成会と会合を持ち、子供が納涼祭へ参加出来るよう行事の時間を調整し、子供と保護者が参加出来る時間を多くする事になりました。

納涼祭当日は15時に部員が集合し準備を始めました。初めは部員の人数が少なかったですが、時間を追って部員の人数も少しずつ増えてきて、何とか開催に間に合いました。多くの方に参加いただけると嬉しいので、事前にビール配布のチラシ、抽選券の引き換え券を各家庭に配り、お祭りではビールの交換、豪華賞品抽選会クジ抽選券の交換、バーゲーム、キッチンカーでの販売、ローソンの出張販売、『紅華』による太鼓演奏、笛、大正琴の演奏を企画しました。

上平分館 納涼祭

上平分館 橋本 邦夫

上平分館では8月4日に納涼祭が開催されました。開催までには正副部長会、オール部員会を開き、課題を出し、検討を重ね準備をして来ました。課題としてはまず部員の参加者が少なく、当日のイベントが実行出来るか人の割り当てに苦勞しました。課題の2つ目として納涼祭の参加者の

力強く響く音、静かだけれどカッコイイ曲などがあって、とても盛り上がりがありました。「たくさん練習したんだらうなあ。」「すごいなあ。」と思つて見ていました。観客の中には浴衣姿の人もいました。今年はずいぶん涼しかったので、射的は外で行われていました。射的では行列を作っていて、皆楽しそうに順番を待っていました。射的の横に大きなガラポンがあり、それをゆつくりと回して出てきたボールの色で色々な景品を貰えるようでした。屋台では、定番のかき氷や焼きそばなど、お祭りらしい食べ物売られていました。私はイチゴゴ味のかき氷を最初に食べ、「お祭りに来たんだ」という気持ちになり、とても嬉しかったです。お祭りの時の食べ物、特別な気分になれるのです。

その後も、フランクフルトや焼きそばを姉と一緒に食べました。家で待つ父へのお土産に、フランクフルトと焼きそばと焼き鳥を買って持ち帰りました。父は美味しそうに全部平らげていました。

17時半に納涼祭を開会しました。子供たちがスノーボールすくい、射的、水風船釣りをニコニコしながら楽しんでいました。笑顔が、やつて良かったと感じる時間でした。多くの方に参加いただき、かき氷やローソンのキッチンカーも好評で大勢の方が並んでおりました。地区外の兄弟、お孫さんなどの参加もあり、盛り上がりました。部員の参加については6割程度で、集客については、コロナ前位だったように思います。分館行事への若い方がこれからの課題です。

吉田中分館 夏祭り

吉田中分館 本島 直

吉田中分館では、8月4日に夏祭りを行ないました。コロナ以前は、納涼祭の意味もあり、スポーツ大会と飲食を伴った懇親会のセットでしたが、コロナ禍

で行って、思い出をたくさん作りたいです。今度は友達と屋台を回してみようかなと思います。

子供から大人まで楽しめること、コロナ・熱中症対策から、室内で出来るイベントを企画しました。数年前から紹介された「囲碁ボール」は昨年好評でしたので、区民会館のホールに3面設置し、参加者51名で、9チームに分けて行いました。子供さんの参加も多く、敢えて順位をつけないうようにして、和気あいあいとプレーしました。同じ地域内に居ても普段会ったことのない人と年代を越えて交流が出来ました。また、アトラクションとして、ダーツ大会を行いました。こちらは、景品がかかっているのでも真剣ですが、的の少しの位置で点数が変わり、子供も大人も一喜一憂

して楽しめました。今年は、小学校PTAも共催とされたので、PTA役員の皆様の企画として「スノーボールすくい」、「ヨーヨー」を同じ会場で行なうことで、小学生、保育園児が例年より多く参加してくれました。



イベントの締めは、ビンゴ大会で盛り上がりました。懇親会のない分、景品に予算配分しましたので、豪華(?)景品も飛び出しました。夏の夜を締めくくりました。時代の変化や価値観の多様化はあります。年一度位は、地域の人達が集まり交流の機会を持つことは、有意義であると思えます。ブックマ

まちのとしょかん

8月2日(金)、中学生以上の若い世代に向けた企画として、「BOOK CAFE」を開催しました。「図書館×ボードゲーム」をテーマとして、ゲームをきっかけに本へのつながりや興味を持ってもらえるよう考えたこの企画。当日は4名の学生が参加してくれました。今回遊んだのは、「広辞苑」を使う「たはいや」というゲームです。「広辞苑」に載っている言葉の「ニセの意味」を考えてだまし合いながら遊ぶこのゲームで、参加者からは創意あふれる様々な「ニセの意味」が作られました。イベントの最後には、特色ある辞書や言葉にまつわる書籍を紹介し、図書館で所蔵する多様な資料に触れていただきました。

8月7日(水)は、町内保育園の参観日でも好評の「ブックマルシェ」を実施。絵本を中心に150冊あまりの本を用意し、自由に手に取って楽しんでいただきました。お気に入りの本が見つかるとその場で借りていく方もいて、図書館利用のきっかけの一つになったことと思えます。ブックマ



8月19日(月)には、塩尻市読書推進アドバイザーの北原まりさんを講師に迎え、読み聞かせ講習会「絵本の楽しみ」を開催しました。当日は、町内保育園の保育士や読み聞かせボランティアの方々と、40名以上の方が参加くださいました。北原さんは、読み聞かせの絵本を選ぶ際のポイントや参考にできる情報源のほか、子どもの気持ちになつて絵本の「絵」に注目する体験など、多くの実践も交えながら幅広い知識をご教授くださいました。それぞれのイベントで参加いただいた皆さま、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございます！

図書館に親しむ 各種イベントを開催!

夏休みを迎えた8月、高森町子ども読書支援センターが企画し、各種イベントを実施しました。

ルシエは、図書館にまだ行ったことがないお子さんも気軽に本に触れられるよう、お子さんが慣れ親しんだ場所に出向いていくことで、図書館との接点を増やしていきなさいという思いがあります。今回の実施が、小さなお子さんの図書館デビューにもつながれば幸いです。



Instagramのフォローはこちらから